

一般社団法人日本解剖学会 2025（令和7）年度第5回常務理事会議事録

日 時：2025（令和7）年9月27日（土）13:00～16:20

場 所：一般財団法人口腔保健協会 3階 302会議室

出席者：仲嶋 一範（理事長）、池上 浩司、大和田 祐二、堀 修、宮田 卓樹（以上、常務理事）、岡部 正隆、竹林 浩秀、日置 寛之（以上、常任幹事）、伊藤 杏佳、中村 聰（以上、口腔保健協会）

I. 会議記録の確認

以下の会議記録が確認された。

- (1) 2025(令和7)年度第4回常務理事会（2025(令和7)年6月8日開催）議事録(案)
- (2) 2025(令和7)年度第6回理事会（2025(令和7)年7月2日開催）議事録(案)

II. 報告事項

1. 庶務報告

(1) 会員異動報告

資料に基づき、以下の報告があつた。

・令和 7年 5月分

入会者 該当者なし

退会者 正会員 3名

・令和 7年 6月分

入会者 正会員 3名

退会者 正会員 1名、学生会員 5名、名譽会員 2名

・令和 7年 7月分

入会者 正会員 6名、学生会員 2名

退会者 正会員 9名、学生会員 1名、名譽会員1名

・令和 7年 8月分

入会者 正会員 2名、学生会員 1名

退会者 正会員 1名、学生会員 2名

・逝去会員

藤 英俊 氏（福岡歯科大・名譽教授／永年会員）令和7年3月23日逝去（満83歳）

寺田 春水 氏（北里大・名譽教授／名譽会員）令和2年5月1日逝去（満94歳）

出浦 滋之 氏（岐阜大・名譽教授／名譽会員）令和7年1月逝去（満98歳）

・新規就任教授

服部 剛志 氏（奈良医大・解剖第2・教授） 令和7年4月1日就任

武智 正樹 氏（東京科学大・口腔顎顔面解剖学・教授） 令和7年4月1日就任

貴田 浩志 氏（福岡大・医・解剖学・教授） 令和7年4月1日就任

味八木 茂 氏（香川大・医・組織細胞生物学・教授） 令和7年5月1日就任

臼井 紀好 氏（新潟大・医・脳機能形態学・教授） 令和7年9月1日就任

松下 祐樹 氏（長崎大・歯・硬組織発生再生学・教授） 令和7年10月1日就任

(2) 学会宛文書類について

資料に基づき、以下の通り到着した文書の報告があつた。

通知・依頼：日本医学会より「（周知依頼）再生医療安全性確保法及び臨床研究法の施行通知等について」他91件

書籍・定期通信 他：（公社）日本麻酔科学会より「Journal of Anesthesia Volume39 No.3」他9件

(3) 2024（令和6）年度推薦による代議員申請状況について

資料に基づき、1名の申請があつたことが報告された。

(4) 男女共同参画学協会連絡会報告

資料に基づき、第23期第3回運営委員会（2025年8月29日）の内容などが報告された。

(5) 若手研究者の会報告

資料に基づき、解剖セミナー旅費支援事業の状況、第131回日本解剖学会総会・全国学術集会における若手の会企画の準備状況について報告された。

(6) その他

特になし。

2. 編集報告

(1) 解剖学雑誌及びASI刊行報告及び刊行予定

資料に基づき、解剖学雑誌100巻2号ならびにASI100巻4号が2025年9月下旬～10月に会員に発送予定であること、今後ASI100巻4号が刊行予定であることなどが報告された。

(2) ASIにおける2023年インパクトファクターについて

資料に基づき、2023年のIFや過去のIFの推移について報告された。

(3) 2025・2026年度解剖学雑誌・ASI発送方法について

日本郵政「特約ゆうメール」廃止に伴い、発送業者をディーエムソリューションズ社に変更し、従来どおりASIおよび解剖学雑誌の発送とし、海外発送分については事務局で発送対応とした。海外発送時に冊子体の送付意向を21名に確認し、今後は発送を行わないことが報告された。また、ASIは101巻1号より電子化されることに伴い、冊子体の発行は、団体会員への送付分（30部）に加え、事務局保管用、団体会員の新規入会対応分、および個人会員からの希望者への販売用としての予備（30部）になること、さらに冊子体の納品部数が1,000部を下回る場合には、1部あたりの価格が変更となる旨が報告された。

(4) その他

特になし。

3. 企画・渉外報告

(1) 2025(令和7)年度認定一級技術者資格試験について

資料に基づき、5名の応募者に対して、試験が9月27日に実施されたことが報告された。

(2) 認定二級技術者資格審査結果について

資料に基づき、3名の応募者全員が合格と判定されたことが報告された。

(3) 2025(令和7)年度奨励賞・認定解剖組織技術者功労賞申請状況について

資料に基づき、両賞の募集の内容、および募集中であることが報告された。

(4) 2026(令和8)年度第131回総会・全国学術集会の準備状況について

資料に基づき、第131回総会・全国学術集会の概要（日程表、特別講演、シンポジウム、アワードなど）が報告された。また、演題の募集が開始されていることについても報告された。

(5) 2029(令和11)年度第134回総会・全国学術集会開催校について

資料に基づき、応募の状況が報告された。

(6) 日本医学会報告・日本医学会連合報告

資料に基づき、2025年度日本医学会臨時評議会（2025年6月27日開催）の内容が報告された。

(7) 生物科学学会連合報告

資料に基づき、新規に2つの学会（日本靈長類学会、日本毒性学会）の入会申込があったことが報告された。

(8) 日本脳科学関連学会連合報告

日本脳科学関連学会連合の現状について報告された。

(9) 国際渉外関係について（KAA、APICA、IFAA等）

資料に基づき、以下が報告された。

・KAA（韓国解剖学会）：

2025年の相互交流はJAA-KAA国際交流協定に基づき、10月15~17日に開催される大会に、孫在隣氏（大阪大）、井原大氏（滋賀医科大学）の2名を派遣することが報告された。

・APICA（アジアパシフィック国際解剖学会議）：

APICA2025（2025年8月9日～11日開催）において、仲嶋理事長がAPICA2027招致のためのプレゼンテーションを行い、岡山での開催が決まったこと、今回のAPICA2025では、寺田前理事長、大和田理事、竹林常任幹事がアドバイザリーボードとして対応したことが報告された。

・IFAA（国際解剖学会）：

第22回IFAAは、2026年にオーストラリアのメルボルンでの開催が決まっていること、第23回は2029年に開催が予定されていることが報告された。

(10) 日本外科学会CST推進委員会報告

CST推進委員会によるサイトビジットについて報告がなされた。

(11) その他

特になし。

4. 会計報告

(1) 2025(令和7)年度中間決算書について

資料に基づき、2025（令和7）年度中間決算書（1月1日～7月31日）について報告された。確定した第130回総会・全国学術集会の決算について、収入と支出が当初予算よりも若干増加したことが報告された。

(2) 2025（令和7）年度第130回総会・全国学術集会収支決算について

資料に基づき、第130回総会・全国学術集会収支決算が報告された。

(3) その他

特になし。

5. 理事長報告

(1) CST事業の法人設立準備委員会報告

資料に基づき、令和7年度第1回CST推進委員会/第4回CST事業の法人設立準備委員会合同委員会（2025年6月11日開催、仲嶋理事長、大和田常務理事、宮田常務理事、徳田理事、尾崎監事、出席）において、臨床医学・歯学の教育及び研究におけるご遺体の取扱いに関する共同声明の審議結果の報告、CST事業の新法人設立についての継続審議の内容について報告された。

(2) その他

特になし。

III. 審議事項

1. 新入会員の承認について

資料に基づき、2025(令和7)年5月1日から8月31日までに入会申請のあった正会員11名、学生会員4名について審議の結果、全員の新規加入が認められた。

2. 教授就任による代議員について

資料に基づき、教授就任による代議員の申請のあった以下の6名について審議の結果、代議員の就任が承認された。

・松下 祐樹 氏（長崎大院医歯薬学総合研究科硬組織発生再生学分野 教授 令和7年10月1日就任）

・服部 剛志 氏（奈良県立医大・解剖2 教授 令和7年4月1日就任）

・臼井 紀好 氏（新潟大・脳機能形態学分野 教授 令和7年9月1日就任）

・武智 正樹 氏（東京科学大院医歯学総合研究科口腔顎顔面解剖学分野 教授 令和7年4月1日就任）

・貴田 浩志 氏（福岡大・解剖 教授 令和7年4月1日就任）

・味八木 茂 氏（香川大・医・組織細胞生物学 教授 令和7年5月1日就任）

3. 休会申請について

資料に基づき、休会申請1件が承認された。休会できる期間は最長で3事業年度であることが確認された。

4. 入会に関する申し合わせについて

資料に基づき、解剖学会入会に関する申し合わせについて協議し、推薦理由を明記する形式の推薦書の書式を新たに定めることが了承された。

5. 基本財産運用方針の確認について

資料に基づき、10月に満期を迎える基本財産の運用について、これまで通り1年の定期預金で運用することが了承された。

6. 第131回総会・全国学術集会における委員会企画への助成審査について

資料に基づき、第131回総会・全国学術集会における委員会企画への助成申請について審議した。日本顕微鏡学会連携シンポジウム、日本生理学会連携シンポジウムを含む3件の委員会主催のワークショップ・シンポジウム助成申請はいずれも認められた。本来、同申請は学術委員会から提出され、前回常務理事会にて審議される予定であったが、連携シンポジウムの企画が学術委員会の役割であることの確認が不十分であったため、手続きが遅れた。対策として、委員会の名称を「学術・連携委員会」に改称することが提案され、審議の結果、了承された。

7. ホームページリニューアルについて

資料に基づき、学会ホームページ改訂について議論を行った。現行のOHASYSで利用可能な機能を踏まえながら、メニュー構成の整理やCMS導入の可能性について検討がなされた。今後は、常務理事会にて改訂案をとりまとめるため、若手研究者の会にも意見も聞いて、柔軟に対応を進めていくことになった。

8. 第12回APICAの開催体制について

資料に基づき、2027年3月に岡山で開催予定の第132回総会・全国学術集会と併催する形で、第12回APICAを開催する体制について審議した。その結果、APICAの会頭には池上浩司常務理事・中国・四国支部長が就任することを理事会に諮ることが了承された。さらに、APICAではホスト国（日本）の解剖学会が各国解剖学会との交流を深めることが期待されているため、プログラム委員会とは別にAPICA組織委員会を設置し、その委員会構成案が提案され了承された。

9. 会員名簿について

資料に基づき、2028年に発行予定の会員名簿について審議した。発行方法としては、従来通りの冊子体、検索機能付き電子体、冊子体と同様の情報をPDF化した電子体の3案が示され、それぞれのメリット・デメリットが検討された。冊子体については送料値上げによる経費増大が指摘され、検索機能付き電子体については個人情報保護や費用対効果の観点から十分検討する必要があるとの意見があった。また、他学会では名簿作成自体を取りやめている例も紹介された。発行方法については継続審議となった。

10. 賛助会員へのインセンティブについて

資料に基づき、賛助会員数の減少に対する対策として、他学会におけるインセンティブ施策の事例が紹介された。議論では、CSTに関連する医療機器メーカーに対し、外科系学会を通じて賛助会員としての参加を依頼できないかといった提案を含め、さまざまな意見が交わされた。

11. その他：

・IFAAとISMSについて

国際的な解剖学分野の組織的枠組みとして、IFAA（国際解剖学会連合）とは別にISMS（国際形態科学シンポジウム）が活動している。日本解剖学会はIFAAを脱退しており、現在はAPICAや個別の二国間連携を中心に国際的な連携を進めているが、今後、国際的な連携をどのように進めていくかを検討するにあたって、両国際組織の実態や本学会員の関与の仕方など含め、情報を収集していく必要性が確認された。

・解剖セミナー旅費支援について

若手研究者の会より要望のあった解剖セミナー旅費支援について、応募者5名全員を対象に要望通り特別事業積立金（若手育成支援費）より支援することが審議され了承された。

・次回会務の確認について

次回の常務理事会および理事会の日程は下記の通りとなった。

2025(令和7)年11月29日（土）AP新橋を予定。

常務理事会 11:00 – 13:30、理事会 14:00 – 17:00（開場13:30）